

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 授業科目名                    | 発展体育サッカー (秋)  |
| 科目番号                     | 2313293   |
| 単位数                      | 0.5 単位  |
| 標準履修年次                   | 3 年次  |
| 時間割                      | 秋 AB 月 4  |
| 担当教員                     | 小井土 正亮  |
| 授業概要                     | サッカーにおける個人の技能の向上とともに、戦術やポジションなどのチームとしての戦い方をチームメイトと共有し、戦略的にゲームに臨む楽しさを知る。   |
| 備考                       | 実務経験教員<br>対面<br>男女別要素 (接触)<br>男女別要素 (特別ルール・ペア/チーム分け)<br>G 科目<br>短期留学生が受講を希望する際は、初回授業の 3 日前までに授業担当教員に連絡し受講許可を得ること また原則先着順で 2~3 名までとします。  |
| 授業形態                     | 実習・実験・実技  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係       | 「5. 心身の健康と人間性・倫理性」に関連する<br>「6. 協働性・主体性・自律性」に関連する  |
| 授業の到達目標 (学修成果)           | 自己を成長させ続ける力を習得し、より豊かなスポーツライフを形成する。<br>1) サッカーの特性を理解する。<br>2) 仲間と協力して、ゲームを楽しむ。<br>3) サッカーを通して、心身を健康に保つ方法を学び実践する。   |
| 授業計画                     | サッカーに関して、Jリーグチームでの指導経験がある教員が授業を実施する。<br>第 1 週授業内容の説明、導入<br>第 2 週基礎技術 1(ボールを止める、蹴る、運ぶ)<br>第 3 週基礎技術 2(ボールを止める、蹴る、運ぶ)<br>第 4 週グループ戦術 1(仲間との協力, ボール保持)<br>第 5 週グループ戦術 2(仲間との協力, ボール保持)<br>第 6 週グループ戦術 3(仲間との協力, さまざまな崩し)<br>第 7 週チーム戦術 (オープン戦・オフサイドの理解)<br>第 8 週チーム戦術 1(リーグ戦)<br>第 9 週チーム戦術 2(リーグ戦)<br>第 10 週チーム戦術 3(リーグ戦) |
| 履修条件                     |   |
| 成績評価方法                   | 技能 35%、知識・理解 30%、態度・意欲 35%<br>技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する<br>単位認定は、原則として当該授業科目の出席時間数が 3 分の 2 以上の者について行う   |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法   | 健康観察記録を行うことを欠かさずに、授業での学びを次週までに復習する  |
| 教材・参考文献・配付資料等            |   |
| オフィスアワー等 (連絡先含む)         | 体育科学系棟 B206<br>水曜 10:00-11:00<br>koido.masaaki.gu@u.tsukuba.ac.jp<br>水曜日 10 時~11 時 koido.masaaki.gu-at u.tsukuba.ac.jp  |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 人工芝のサッカー場を使用するため、シューズ (凸凹があるものが望ましい) を別に用意すること<br>レポート等の作成に際して生成 AI を用いる場合には、「教育における生成 AI 活用のガイドライン (学生向け)」を参照し、適切に活用してください。  |

|                                      |   |
|--------------------------------------|---|
| 他の授業科目との関連                           |   |
| ティーチングフェロー<br>(TF)・ティーチングアシスタント (TA) |   |
| キーワード                                | スポーツライフ, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ, チームワーク |

|                        |   |
|------------------------|---|
| 授業科目名                  | 発展体育ソフトボール(秋)   |
| 科目番号                   | 2321293   |
| 単位数                    | 0.5 単位  |
| 標準履修年次                 | 3 年次  |
| 時間割                    | 秋 AB 月 4  |
| 担当教員                   | 木内 敦詞   |
| 授業概要                   | ソフトボールにおける安心安全と技能上達を、共生協働の実践を通して目指す。さらに、これらの活動を自己成長の機会として捉える視点を養う。授業は、受講者の技能や体力の多様性に応じて、使用球やルールを柔軟に調整して編成する。評価は技能や体力の優劣によって行わない。  |
| 備考                     | 対面<br>男女別要素(特別ルール・ペア/チーム分け)<br>G 科目   |
| 授業形態                   | 実習・実験・実技  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係     | 「5. 心身の健康と人間性・倫理性」に関連する<br>「6. 協働性・主体性・自律性」に関連する  |
| 授業の到達目標(学修成果)          | (1) 自己を成長させ続ける力を習得し、より豊かなスポーツライフを形成する。<br>(2) 誰もが安心して試行錯誤し互恵的に技能上達する班/チーム/クラスになる。<br>(3) 自身の心身の状態を踏まえて授業出席の可否を判断できる。<br>(4) 他者の多様性を踏まえた関わり方を説明できる。<br>(5) 活動の安全上のリスクを指摘・言語化できる。<br>(6) 授業活動を教育的視点から振り返り、改善点を述べられる。  |
| 授業計画                   | 春学期の自分よりも捕送打走ともにより高度に、守備においては2つ(内野1つ、外野1つ)以上の専門ポジションの技術を磨いていく。<br>第1週 授業設計の確認、チーム内アイスブレイク、捕送打の基本<br>第2週 課題探索ゲーム基礎<br>第3週 課題探索ゲーム応用<br>第4週 課題探索ゲーム発展<br>第5週 内野ゴロ併殺と公式戦の基礎<br>第6週 フリー打撃の組織練習(走塁編)<br>第7週 フリー打撃の組織練習(守備編)<br>第8週 試合前ノックと秋季リーグ戦の基礎<br>第9週 試合前ノックと秋季リーグ戦の応用<br>第10週 試合前ノックと秋季リーグ戦の発展 |
| 履修条件                   | 運動に適したシューズ・スポーツウェア着用のこと。熱中症予防の観点から、帽子着用と飲み物持参を強く推奨する。安全管理上、長い爪での受講は認めない。  |
| 成績評価方法                 | 技能 35%、知識・理解 30%、態度・意欲 35%。技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。本授業では技能点を活動点として評価する。   |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 毎回授業の翌日 15 時まで、「授業当日のコンディション」と「授業内活動の省察」を manaba にてレポート提出のこと。また、ベースボール型競技(ソフトボールおよび野球)のルールや練習に関する動画視聴課題にも取り組むこと。  |
| 教材・参考文献・配付資料等          | 初歩的ルール理解の及ばぬ受講者は、以下に示す2冊目の図書の内容を理解の上、初回授業に出席されたい。<br>1. 川村 卓, 新しい投げる捕る打つ野球解析図鑑、イースト・プレス ISBN-13: 9784781621340<br>2. 中野良一、木谷友亮, これさえ読めばだいたいわかる: 野球のルール超初級編、ベースボールマガジン社 ISBN-13: 8784583115382   |
| オフィスアワー等(連絡先含む)        | 特に定めないが、事前にメールで連絡のこと。kiuchi.atsushi.fw@u.tsukuba.ac.jp<br>kiuchi.atsushi.fw at u.tsukuba.ac.jp  |

|  |   |
|--|---|
| <p>その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）</p>           | <p>単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。レポート等の作成に際して生成 AI を用いる場合には、「教育における生成 AI 活用のガイドライン (学生向け) 筑波大学」を参照し、適切に活用すること。授業実施場所は主に野球場とするが、北東に隣接の多目的グラウンドも併用する。雨天時の室内練習場での授業に備えて、外履とは別の館内シューズを準備のこと。</p> |
| <p>他の授業科目との関連</p>                        |   |
| <p>ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA)</p> | <p>TA 配置あり (1 人)</p>  |
| <p>キーワード</p>                             | <p>自己啓発力, スポーツライフ, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ, チームワーク, 安心安全, 共生/協働/互惠, 上達/成長</p>  |

|                        |   |
|------------------------|---|
| 授業科目名                  | 発展体育卓球 (秋)  |
| 科目番号                   | 2322293   |
| 単位数                    | 0.5 単位  |
| 標準履修年次                 | 3 年次  |
| 時間割                    | 秋 AB 月 4  |
| 担当教員                   | 安藤 真太郎  |
| 授業概要                   | 卓球競技の技術の本質から学ぶとともに、上達過程の中でスポーツ活動に関する知識を深める。また自己のスポーツライフや、スポーツ文化についても実技を通して発展的に学び、スポーツに関する自由な発想を育てる。   |
| 備考                     | 実務経験教員<br>対面<br>男女別要素 (接触)<br>G 科目  |
| 授業形態                   | 実習・実験・実技  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係     | 「5. 心身の健康と人間性・倫理性」に関連する<br>「6. 協働性・主体性・自律性」に関連する  |
| 授業の到達目標 (学修成果)         | ☆自己を成長させ続ける力を習得し、より豊かなスポーツライフを形成する。<br>(1) 卓球の競技特性について理解し、運用できる。<br>(2) 仲間とコミュニケーションを取り、円滑に課題をクリアできる。<br>(3) 集団全体の動きを把握し、主体的に行動できる力を身に付ける。<br>(4) 対人競技を通して、相手や仲間のことを考え、スポーツマンシップについて学ぶ。<br>(5) 運動機会を得るための、簡単なスポーツレクリエーション等の企画、運営ができる。<br>(6) 自身の生活や健康を踏まえ、スポーツライフについて考える。   |
| 授業計画                   | 元日本代表コーチ経験を有する教員が、その経験を踏まえ、実技を指導する。<br>第 1 週打球技術の理解と発展、より進んだ空間的認知を伴うフォアハンド<br>第 2 週距離的条件を変えたプレー、正確な空間認知と速い動作の両立<br>第 3 週グリップワークの発展、道具を手で操作するスポーツの理解<br>第 4 週フットワークの理解と発展、広範囲の移動<br>第 5 週競技経験者と初級者が一緒に参加するゲームの設定法<br>第 6 週団体戦ゲーム、個人競技に置ける団体戦形式のあり方に関する理解<br>第 7 週卓球を利用したスポーツレクリエーションの企画・運営について<br>第 8 週用具条件への適応<br>第 9 週用具条件への適応と発展<br>第 10 週生涯スポーツとしての卓球の理解 |
| 履修条件                   |   |
| 成績評価方法                 | 技能 35%、知識・理解 30%、態度・意欲 35%<br>技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。  |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業で興味関心を持った内容について、自発的に学習を行う。  |

|                                   |   |
|-----------------------------------|---|
| 教材・参考文献・配付資料等                     |   |
| オフィスアワー等（連絡先含む）                   | 特に定めない。研究室訪問の際は、事前にメール連絡をすること。<br>ando.shintaro.fu at u.tsukuba.ac.jp   |
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）           | 受講にはインドア用シューズは必携。服装はスポーツウェア。<br>経験者の受講を妨げないが、本科目は初心者を重視した内容となっている。<br>単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。<br>レポート等の作成に際して生成 AI を用いる場合には、「教育における生成 AI 活用のガイドライン (学生向け)」を参照し、適切に活用してください。 |
| 他の授業科目との関連                        |   |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) |   |
| キーワード                             | 自己啓発力, スポーツライフ, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ, チームワーク  |

|                    |  |
|--------------------|--|
| 授業科目名              | 発展体育ダンス (秋)  |
| 科目番号               | 2323293  |
| 単位数                | 0.5 単位   |
| 標準履修年次             | 3 年次   |
| 時間割                | 秋 AB 月 4   |
| 担当教員               | 岡子 美和  |
| 授業概要               | 多様なダンスに挑戦し、その動きを理解して技術の向上を目指す。さらに、個々の自己表現力と感性を磨き、生涯においてダンスを通して豊かな生活を送るための実践力を養う。   |
| 備考                 | 対面<br>男女別要素 (接触)<br>G 科目   |
| 授業形態               | 実習・実験・実技   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 「5. 心身の健康と人間性・倫理性」に関連する<br>「6. 協働性・主体性・自律性」に関連する   |
| 授業の到達目標 (学修成果)     | ☆自己を成長させ続ける力を習得し、より豊かなスポーツライフを形成する。<br>(1) ヒップホップ特有身体の使い方を学びコントロールできるようになる。<br>(2) 習得したステップや振りを使ってダンスを創作できるようになる。<br>(3) 仲間と協力しながら、楽しく踊ることができるようになる。<br>(4) ダンスを通して心身を健康に保つ方法を学び、実践できるようになる。   |
| 授業計画               | 第 1 週身体ほぐし<br>春学期の復習<br>ダンスのジャンルの違いによる身体の使い方などをステップやターンを通して学ぶ。<br>第 2 週ヒップホップダンス<br>ヒップホップダンス特有の身体の使い方 (ダウンのリズム、アップのリズム) を練習して、ステップに応用する。<br>第 3 週ヒップホップダンス<br>サイドホッピングやランニングマンなどの各種ステップの習得と色々な振りやステップを繋げて踊る練習をする。<br>第 4 週ヒップホップダンス<br>第 2 週、第 3 週で習得したステップや振りを組合せて、小人数グループでタイミングを合わせて踊る練習をする。<br>(実技テス 1: ヒップポップ)<br>第 5 週既成作品を踊る<br>サビの部分覚えて同じように踊る練習をする。<br>第 6 週既成作品と習得済みのステップや振りを合わせて構成する方法を体験する。<br>グループで一つのダンス作品として初めから最後まで通して踊り、完成度を上げる方法などを学ぶ。<br>第 7 週第 10 週の発表会に向けて、ダンス作品の創作をし、練習する。<br>(習得したステップや振りを工夫して自由に創作する)<br>第 8 週第 10 週の発表会に向けて、ダンス作品の創作をし、練習する。<br>(習得したステップや振りを工夫して自由に創作する) |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
|                                 | <p>第9週第10週の発表会に向けて、ダンス作品の創作をし、練習する。<br/>(習得したステップや振りを工夫して自由に創作する)<br/>第10週ダンス発表会(実技テスト2:発表作品)</p>  |
| 履修条件                            |  |
| 成績評価方法                          | <p>技能 35%、知識・理解 30%、態度・意欲 35%<br/>技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。</p>   |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法          | 健康観察を行うとともに、授業での学びの予習・復習を行う。   |
| 教材・参考文献・配付資料等                   | 資料の配布やビデオ視聴を適宜行う。  |
| オフィスアワー等(連絡先含む)                 | zushi.miwa.ga@u.tsukuba.ac.jp  |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位認定は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者について行う。</li> <li>・レポート等の作成に際して生成AIを用いる場合には、「教育における生成AI活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用すること。</li> </ul> |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) |  |
| キーワード                           | スポーツライフ, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ, チームワーク  |

|                    |   |
|--------------------|---|
| 授業科目名              | 発展体育トラック&フィールド(秋)   |
| 科目番号               | 2329293   |
| 単位数                | 1.0 単位  |
| 標準履修年次             | 3 年次  |
| 時間割                | 秋 AB 月 4; 秋 C 集中  |
| 担当教員               | 谷川 聡  |
| 授業概要               | 走・跳・投の基本的技能を理解して自分の身体で理解できるようにし、個人の身体操作方法を学ぶとともに、トレーニング方法を学び、パフォーマンスの向上を図る。   |
| 備考                 | 集中実技と併せて 1 単位とする。集中実技は、秋学期中に 5 日間の朝練習と筑波山登山を行う。<br>実務経験教員<br>対面<br>男女別要素(接触)<br>男女別要素(特別ルール・ペア/チーム分け)<br>G 科目<br>詳細後日周知   |
| 授業形態               | 実習・実験・実技  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 「5. 心身の健康と人間性・倫理性」に関連する<br>「6. 協働性・主体性・自律性」に関連する  |
| 授業の到達目標(学修成果)      | 自己を成長させ続ける力を習得し、より豊かなスポーツライフを形成する<br>(1) 自己の身体を理解<br>(2) 自己の身体操作の特性の理解<br>(3) 自己の身体の変化の客観的/主観的指標づくり   |
| 授業計画               | 走・跳・投の基本的技能を理解して自分の身体で理解できるようにし、個人の身体操作方法を学ぶ さらにトップアスリートのトレーニング方法を学ぶ<br>秋学期 10 回 + 秋学期中の朝トレーニング(7時から8時15分)5回 + 筑波山登山をおこなう。<br>筑波山登山は、日程を相談して秋学期中の週末に実施する。朝トレーニングと筑波山登山は必ず出席。<br>単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が 3 分の 2 以上の者とする。<br>第 1 週授業のガイダンス<br>第 2 週学内ウォーキングとランニング<br>第 3 週体力測定<br>第 4 週様々な移動運動<br>第 5 週日常におけるカラダの動かし方について<br>第 6 週走・跳の基本動作について<br>第 7 週走技術の基本<br>第 8 週跳技術の基本<br>第 9 週投の基本動作について<br>第 10 週投技術の基本<br>第 11 週混成競技:3 種目<br>第 12 週エアロビックエクササイズの基本 |

|                                   |   |
|-----------------------------------|---|
|                                   | <p>第 13 週グループでのエアロビックエクササイズ 1</p> <p>第 14 週グループでのエアロビックエクササイズ 2</p> <p>第 15 週グループでのエアロビックエクササイズ 3</p>   |
| 履修条件                              | <p>秋学期定時授業 10 回 + 秋学期中の朝授業 (7 時から 8 時 15 分)5 回 + 筑波山登山をおこなう。</p> <p>筑波山登山は、日程を相談して秋学期中の週末に実施する。朝授業と筑波山登山は必ず出席。</p>  |
| 成績評価方法                            | <p>1 技能 35% 2 知識・理解 30% 3 態度・意欲 35%</p> <p>技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。</p>   |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法            | <p>授業ごとに毎週の運動記録を提出させる</p>   |
| 教材・参考文献・配付資料等                     |   |
| オフィスアワー等 (連絡先含む)                  | <p>谷川連絡先</p> <p>tanigawa.satoru.gb@u.tsukuba.ac.jp</p>  |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等)          | <p>ジャージや運動靴を用いること (ジーパンや革靴は不可)</p> <p>単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が 3 分の 2 以上の者とする。</p> <p>レポート等の作成に際して生成 AI を用いる場合には、「教育における生成 AI 活用のガイドライン (学生向け)」を参照し、適切に活用してください。</p> |
| 他の授業科目との関連                        |   |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) |   |
| キーワード                             | <p>自己啓発, スポーツライフ, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ, チームワーク</p>  |

|                        |   |
|------------------------|---|
| 授業科目名                  | 発展体育トリム運動 (秋)   |
| 科目番号                   | 2330293   |
| 単位数                    | 0.5 単位  |
| 標準履修年次                 | 3 年次  |
| 時間割                    | 秋 AB 月 4  |
| 担当教員                   | 福田 崇  |
| 授業概要                   | 本授業は体育を履修する上で心身のコンディショニングの理由から積極的に身体を動かすことができない学生を対象に開講している。受講希望者は事前に教員との面談を要する。授業内容は、受講生の心身のコンディションを考慮して体力トレーニング、フライングディスク、フィールドゴルフ、球技などから受講生全員が楽しむことができる種目を決定する。  |
| 備考                     | 実務経験教員<br>対面<br>G 科目  |
| 授業形態                   | 実習・実験・実技  |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係     | 「5. 心身の健康と人間性・倫理性」に関連する<br>「6. 協働性・主体性・自律性」に関連する  |
| 授業の到達目標（学修成果）          | 自己を成長させ続ける力を習得し、より豊かなスポーツライフを形成する<br><br>(1) 自己のハンディキャップを理解して、できる運動を実践する<br>(2) 他者のハンディキャップを理解して、協働して運動を実践する<br>(3) 身体活動やスポーツを通して自己の生活が豊かになることを理解する<br>(4) 他者とのコミュニケーションを図り、身体活動を楽しむ  |
| 授業計画                   | 授業内容は受講生の心身のコンディションを考慮して変更することがある。また、天候や気候などによって変更もありうる。<br>第 1 週ガイダンス<br>第 2 週基本知識 (クラブの持ち方, ボールの打ち方)<br>第 3 週ボールのコントロール (方向)<br>第 4 週ボールのコントロール (距離)<br>第 5 週さまざまな障害からのアプローチ<br>第 6 週ミニゲーム 1<br>第 7 週ミニゲーム 2<br>第 8 週グラウンドゴルフトーナメント 1(個人リーグ戦)<br>第 9 週グラウンドゴルフトーナメント 2(団体リーグ戦)<br>第 10 週グラウンドゴルフトーナメント 3(団体トーナメント戦) |
| 履修条件                   | 本授業は体育を履修する上で心身のコンディションから積極的に身体を動かすことができない学生を対象に開講している。受講前に担当教員との面談を要する。  |
| 成績評価方法                 | 1 技能 35%, 2 知識・理解 30%, 3 態度・意欲 35%<br>技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。  |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 日常生活の中で歩くことを意識する。週に 2 回 20 分程度のウォーキングを行う。自身の健康について気づいた点をメモをして授業時に発表する。  |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 教材・参考文献・配付資料等                   | 特になし、必要に応じて、授業時に資料を配布する。   |
| オフィスアワー等（連絡先含む）                 | 特に設定をしていません。メールで連絡をして下さい。 fukuda.takashi.gm at u.tsukuba.ac.jp   |
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）         | カナダ障害者バレーボールナショナルチーム・アスレティックセラピストや国立スポーツ科学センター・現トレーニング指導員の経験を生かした誰もが身体活動を楽しめる体育授業を目指す。<br>単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。<br>レポート等の作成に際して生成AIを用いる場合には、「教育における生成AI活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。 |
| 他の授業科目との関連                      |  |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) |  |
| キーワード                           | スポーツライフ, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ, チームワーク  |

|                         |  |
|-------------------------|--|
| 授業科目名                   | 発展体育バスケットボール(秋)  |
| 科目番号                    | 2334313  |
| 単位数                     | 0.5 単位   |
| 標準履修年次                  | 3 年次   |
| 時間割                     | 秋 AB 月 4   |
| 担当教員                    |  |
| 授業概要                    | バスケットボールの個人戦術、グループ戦術を習得し、グループ戦術を中心にバスケットボールの特性を活かしたゲームをとおして、問題解決能力、協調性を養いながら、バスケットボールの構造を理解できるようになる。   |
| 備考                      |  |
| 授業形態                    | 実習・実験・実技   |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係      | 「5. 心身の健康と人間性・倫理性」に関連する<br>「6. 協働性・主体性・自律性」に関連する   |
| 授業の到達目標（学修成果）           | ☆自己を成長させ続ける力を習得し、より豊かなスポーツライフを形成する。<br>(1) バスケットボールの特性を理解し、ゲームを楽しめる。<br>(2) バスケットボールに関する基礎的知識と技術を習得し、実践できる。<br>(3) バスケットボールの基本的な技術、戦術を身につける。<br>(4) バスケットボールを通して心身を健康に保つ方法を学び、実践できる  |
| 授業計画                    | バスケットボールにおける大学トップレベルのチームを指導する教員がその経験を活かして授業を実施する。<br>第 1 週個人戦術の復習(ファンダメンタルの確認、3x3)<br>第 2 週グループ戦術の習得(ドリブルサポート)<br>第 3 週グループ戦術の習得(アウトナンバー)<br>第 4 週グループ戦術の習得(ディフェンス)<br>第 5 週リーグ戦 1<br>第 6 週リーグ戦 2<br>第 7 週リーグ戦 3<br>第 8 週リーグ戦 4<br>第 9 週リーグ戦 5<br>第 10 週総合確認 |
| 履修条件                    |  |
| 成績評価方法                  | 技能 35%、知識・理解 30%、態度・意欲 35%<br>技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。   |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法  | 健康観察記録を行うとともに、授業での学びの予習・復習を行う。   |
| 教材・参考文献・配付資料等           |  |
| オフィスアワー等（連絡先含む）         | 連絡先:nakazawa.shota.fw@u.tsukuba.ac.jp  |
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等） | 運動に適した服装とシューズを準備して、授業に臨むこと。<br>単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が 3 分の 2 以上の者とする。<br>レポート等の作成に際して生成 AI を用いる場合には、「教育における生成 AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。  |

|                                   |  |
|-----------------------------------|--|
| 他の授業科目との関連                        |  |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 1名配置予定   |
| キーワード                             | 自己啓発力, スポーツライフ, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ, チームワーク |